

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 6月 11日

【評価実施概要】

事業所番号	2871101537		
法人名	社会福祉法人 門真晋栄福祉会		
事業所名	グループホーム宝塚ちどり		
所在地	兵庫県宝塚市亀井町10番30号 (電話) 0797-73-0880		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	2009年6月11日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 人,	非常勤 人, 常勤換算10.45

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,747 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (159,120円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,480 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	4名	要介護2	7名
要介護3	5名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	門真晋栄福祉会診療所
---------	------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・隣接する法人の特別養護老人ホームにある地域交流スペースでホームの利用者も特養入居者や地域住民、子どもたちと交流する機会が作られている。併設の診療所で日常の健康管理ができ安心して生活できる環境である。「家庭的な雰囲気」とはどういうものかを念頭において、「自宅です?」「自宅にある?」を判断材料にしている。出来ないと決めつけずポジティブプランで利用者の活動の幅を広げることを心がけている。ホームを利用者の帰る場=自宅を捉えて、職員退出時は「行ってきます」と挨拶する等の配慮がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・法人の理念に地域重視を盛り込んだ。地域に前向きに関わりを持ち、外出も個別対応を心がけるようにしている。グループホームのネットワーク作りを市に働きかける準備をしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・管理者とユニットリーダーが職員の意見を聞いてまとめた。管理者は働きやすい職場作りを心がけ、職員は利用者の地域との交流の大切さを再認識した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・行政、地域代表、有識者、家族、利用者代表で、定期的開催している。事業所からは事業計画も含めた活動報告や職員で協議している項目の報告、委員から買物はどこへ行くのかと日常生活についての質問があったり、利用者が参加できる地域の情報をもらったりしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・年一回の家族説明会で、事業報告、翌年度の事業計画、医療との連携、入退院の際の取り扱い等報告しているが家族同士での話し合いの時間は設けていない。介護相談員やオンブズマンに利用者の苦情や意見を聞き取ってもらう工夫をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・地域との関わりを重視し、近隣の小学校の行事や地域のお祭り等に利用者が参加できるよう働きかけている。近所のボランティアの協力で、利用者の付き添いやハーモニカ演奏、花壇作りが行われ、地域住民との交流のもと、生活の幅が広がっている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人として一体化したサービスを志し、グループホーム独自理念は作っていないが地域密着の視点を法人理念に盛り込んだ。		・法人理念に地域住民への視点が見られるが、グループホームは地域密着を特に重視すべきであると考えられるので、独自の役割を目指した理念を再考してもらえないか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ユニット会議の話し合いの中で理念の共有を図っている。ホームを家庭と捉え、「家庭的な雰囲気」作りをサービスの基本に置いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の小学校の行事やお祭り等に利用者が参加している。近所のボランティアの協力で、利用者の付き添いや花壇作りが行われ、生活の幅が広がっている。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者とユニットリーダーが職員の意見を聞いてまとめた。管理者は働きやすい職場作りを心がけ、職員は利用者の地域との交流の大切さを再認識し、個別ケアを深めて行きたいと考えている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・行政、地域代表、有識者、家族、利用者代表で、定期的開催している。事業所からは事業計画や活動報告、委員からは利用者が参加できる地域の情報の提供も受けている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・市とは電話、メール、訪問等により情報提供を行っている。施設の行事への招待等、行事においての相互交流も行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・利用者の暮らしぶりは毎月発行する家族への手紙で伝え、電話連絡時や家族等来訪時は要望や意見を聞くよう努めている。人事異動は広報誌に掲載している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・年一回の家族説明会で、事業報告、翌年度の事業計画、医療との連携、入退院の際の取り扱い等を報告しているが家族同士での話し合いの時間はない。介護相談員やオンブズマンに利用者の苦情や意見を聞き取ってもらう工夫をしている。</p>		<p>・家族同士で話し合い、意見や不満・苦情を出しやすい場を事業所が提案してはいかかか。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・職員は担当制は取らず、一人ひとりの利用者に関わっている。新人職員を全職員でカバーし利用者が不安にならないよう配慮している。また、管理者やユニットリーダーがクッションになって、職員が働きやすい雰囲気を作っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修には希望者が参加している。法人内研修も利用者の状態変化へのOJT指導、ユニット会議の中で必要な勉強等職員を育てる取り組みが行われている。年2回職員の自己評価をもとに話し合いをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・宝塚市で開催された兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会に参加し、同業者との親睦を図りながら情報交換に努めている。他事業所の見学も随時受け入れている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・随時の見学と自宅訪問を行い、情報収集をしている。家族に協力を求める場合もある。短期受け入れ体制の整備により体験利用ができるよう計画中である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・毎日の調理、作業、会話等の中で生活の知恵や思い出を積極的に引き出し、教えてもらうようにしている。3時の喫茶時間は職員も利用者と一緒に楽しんでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・言葉がけや環境づくりをして、意向が出やすいよう努めている。困難な場合は、答えやすい質問を工夫したり家族に相談して、本人の希望に添うようにしている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・計画作成担当者が利用者・家族の意向と職員の見解をもとに、法人特養の管理栄養士や診療所とも連携を取って作成している。サービス担当者会議やヒヤリハットもケアプランにより積極的に反映していきたいと担当者は考えている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・定期見直しは3ヵ月毎、特変事は随時、「情報集約シート」に変化や日常の様子を記録し、見直しにつなげている。観察と記録を重要し、プラン見直しに組み込んでいる。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・併設診療所により、日常的に医療連携体制が取れている。利用者の希望を受け入れ、買物など個別外出にも臨機に対応している。次年度は短期利用共同生活介護の実施を目指している。</p>		<p>・短期利用共同生活介護を実施し、より充実した多機能性を活かした支援に期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・入所時に協力医療機関について説明するが、利用者や家族の意向にそってかかりつけ医を決めている。それぞれの医師が2週間に1回来診し、職員が相談することもある。有償ボランティアに依頼してリハビリ通院をしている利用者もいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・入所契約時に「重度化対応に関する指針」「緩和医療と看取り介護に関する指針」を家族に説明し承諾を得ている。状態に合わせて診療所と協力し、終末期にも安心して対応できる体制をとっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねないように、新人研修時から徹底を図っている。排泄介助などの職員間の連絡は、「3名様」などと部屋番号を使う配慮をしている。また個人情報も慎重に扱い保護に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・一人ひとりの意向を大切しその人らしさを理解するため、個室に入ってコミュニケーションの時間をづくり、利用者の本音を聞くよう努めている。突然の希望には対応できないこともあるが、買物、散歩、夕食後入浴などできるだけ柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・毎日のメニューは、利用者の好みに配慮し季節感を取り入れながら、1ヶ月単位で担当者が作っている。利用者は食材の買物や食事の一連の作業に参加し、利用者同士の交流ともなっている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・入浴時間は、希望や状態に応じるため時間帯を広く設けている。毎日入浴や早朝・夕食後入浴も可能である。体調不良の利用者にはフットバスで足浴している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・利用者が役割を見つけ張り合いを感じて生活できるよう、日頃から一人ひとりの得意分野の把握に努めている。できないと決めつけずやりたいことをまずやらせてもらうポジティブプランを立てている。食堂で利用者の希望の映画を上映することは楽しみと気晴らしの支援となっている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・中庭や裏庭への散歩、買物など日常的な外出支援は前向きに取り組んでいる。しかし、その日突然の個別の外出希望には応じきれない。</p>		<p>・個別の外出希望についてはできるだけ希望にそって支援できるよう、前もって利用者の行ってみたい所の情報収集に努めておくことも方法であろう。</p>
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>・日中は開錠している。エレベーターから出口へはすぐ出られるので、2階の入口には小さく鳴る鈴をつけ、1階の玄関には姿見を置いて、利用者の安全を把握する工夫をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・年2回利用者とともに小学校での地域合同防災訓練に参加し、地域との協力体制づくりに努めている。併設の特養とは2階の通路でつながり避難経路として利用できるのを、誘導手順方法などその都度再確認している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・食事や水分摂取量を記入し利用者の体調管理を行っている。特別配慮が必要な利用者については診療所と連携を取っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・玄関周りにベンチを配置して憩いの場を設けている。リビングは、利用者とともに季節感が出る飾りつけをしている。壁には行事の写真を貼り出しているのを、利用者が楽しさを思い出して話が弾む場面が見られる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・各部屋の表札につける絵を毎月変えて季節感が出るよう工夫している。居室は利用者の意向を尊重した家具の配置とし、居心地よく暮らせるように工夫している。</p>		

 は、重点項目。